

環境科学同窓会通信 第22号

Environmental Science Alumni Association Newsletter Vol. 22

\*\*\*\*\*

目次/Content

1. 「博士課程進学のおすすめ」  
西原 禎文（広島大学大学院先進理工系科学研究科・教授）
2. 「大気海洋コース卒業後の歩み」  
寺尾 建哉（気象庁大気海洋部・技術専門官）

\*\*\*\*\*

## 博士課程進学のおすすめ

西原 禎文（2003 年度博士課程修了 広島大学大学院先進理工系科学研究科・教授）

私は 2004 年に物質環境科学専攻（現・環境物質科学専攻）博士後期課程を修了しました。ここでは、私が博士課程進学を決断したときのこと、博士課程在学中の状況、今当時を振り返って思うこと、そして最後に進学か就職か迷っている修士の学生に対して伝えたいこと、について述べたいと思います。

私が博士課程進学を決断したのは修士 1 年の夏頃で、進学を決意する時期としては比較的早い方だったと思います。そのころ自著論文が初めて受理され、嬉しくて毎日自分の論文をダウンロードしては眺める、ということをや繰り返していました。そのときに、たとえ自分がこの世からいなくなったとしてもこの論文は残り続けるんだ、ということに大きな喜びを感じていました。自分の論文をもっと増やしていこう、この思いで博士課程への進学を決意しました。そんな軽い気持ちで進学を決めたものの、博士課程在学中は自分が世の中から置いていかれているような気がして辛かったのを覚えています。特に、修士課程を共に過ごした同級生が社会人として研究室に戻ってきたとき、「会社は楽しいよ、やりがいがあるよ」とキラキラした目で話していたとき、とても羨ましく思い、同時に自分の進路が本当に正しかったのか不安を感じていました。そんなモヤモヤしながら過ごした博士課程の 3 年間でしたが、今になって当時を振り返ると、自由に考えて研究に向き合える多くの時間があり、失敗しても許して貰える環境で実験し、後輩たちとバカ騒ぎをしながら過ごした時間は何ものにも代え難い充実した時間だったと感じています。そして、心から進学して良かったと思っています。博士課程への進学か就職かを悩んでいる修士の学生からは、博士課程の忙しさについていけるだろうか、そんな才能はあるのだろうか、就職は大丈夫だろうか、という声をよく耳にします。しかし、進学しようと就職しようと懸命に打ち込み、成果を出し続けなければならないのはどちらも同じだと思います。一方、博士課程在学時の経済的な支援や学位取得後の就職環境は我々の時代と比べて圧倒的に良くなっており、実際、就職で苦労している学位取得者を殆ど見なくなりました。ですから、進路について迷っている修士の学生は環境が許すのであれば是非とも「博士課程への進学」を検討してみてください。修士を修了してから定年まで 40 年近くあります（もしかすると 50 年になっているかもしれませんが）。その中で博士課程の期間はたったの 3 年です。勇気を出して踏み出してみたとき、そこには見たこともない新しい世界が待っています。そして、その勇気こそ人生を豊かにするもっとも重要な要素ではないでしょうか。今一度ゆっくり悩んでみてください。皆さんの輝かしい未来を心よりお祈りしています。

## 大気海洋コース卒業後の歩み

寺尾 建哉（気象庁大気海洋部・技術専門官）

私は2009年から2年間、地球圏科学専攻の大気海洋物理学・気候力学コースで熱帯の波動擾乱による下層雲の変動に関する研究に取り組みました。指導教員の堀之内先生をはじめ当時コースに所属していた皆様には、異分野(化学)からやってきた私に気象・気候研究の初歩から研究成果を論文としてまとめるまで様々なことを教えていただきました。研究は決して順調なときばかりでなく、なかなか成果がだせず苦しんだ時もありましたが、今となってはいい思い出です。また、研究以外にも様々なイベントに参加して、同期や先輩、後輩、先生方と楽しい時間を過ごし、充実した学生生活を送ることができました。

修士課程修了後は気象庁に入庁し、しばらくは北海道内の気象官署で主に天気予報や注警報の発表、観測の業務に従事しました。ここでは、（年々技術は進歩しているとはいえ）現象を予測することの難しさを現場の最前線で実感しました。その後、本庁に配属となり、現在は季節予報業務に従事しています。季節予報では、熱帯の気象現象が中緯度に与える影響を考慮することが必要不可欠で、そこで学生時代に学んだ熱帯気象に関する知識が活かしています。また、最近は新たな予報プロダクト開発のための調査等も行っており、ここでは学生時代に習得したデータ解析の知識や技術が役立っています。今後も大気海洋コースで学んだ気象・気候の知識をより深め、気象技術者として、また一行政官としても社会に貢献していきたいと思えます。

発行：環境科学同窓会事務局

〒060-0810 札幌市北区北 10 条西 5 丁目

北海道大学 大学院地球環境科学研究院内

Fax: 011-706-4867

e-mail: [home-coming@ees.hokudai.ac.jp](mailto:home-coming@ees.hokudai.ac.jp)

Issuer: Environmental Science Alumni Association Office

Graduate School of Environmental Science, Hokkaido

University

Kita 10 Nishi 5, Kita-ku, Sapporo 060-0810, Japan

Fax: 011-706-4867

E-mail: [home-coming@ees.hokudai.ac.jp](mailto:home-coming@ees.hokudai.ac.jp)

バックナンバーは同窓会HPでご覧に頂けます。

[www.ees.hokudai.ac.jp/alumni/main/liaison.html](http://www.ees.hokudai.ac.jp/alumni/main/liaison.html) (日本語)

You can visit our back issues page here:

[www.ees.hokudai.ac.jp/alumni/main/liaison-e.html](http://www.ees.hokudai.ac.jp/alumni/main/liaison-e.html) (English)